

令和7年度 成長力強化に貢献する質の高い教育

1. 授業科目名

地域社会体験 B、地域交流、地域と観光 I、地域と観光 II

2. 連携している地元産業界等の組織名称

鳥取県、一般社団法人鳥取中部観光推進機構、一般社団法人山陰インバウンド機構、倉吉博物館、一般社団法人 Work Design Lab、公益財団法人とっとりコンベンションビューロー、(株)小銭屋、有限会社望湖楼、倉吉市ホテル旅館組合、HIS

3. 当該授業等を実施する学部・学科

鳥取短期大学 地域コミュニケーション学科

4. 当該授業等を開講する目的及び内容

四つの科目はいずれも鳥取県と締結した観光人材の育成に向けた寄付講座の設置に係る協定にもとづき、鳥取県で求められる創造的な能力を備えた観光人材育成を目的として開設した「創造的観光人材育成プログラム」の中核となる科目である。「創造的観光人材育成プログラム」では、地元観光産業・観光推進機構等からなるコンソーシアム会議を年に2回程度開催し、地元観光産業の課題、学生が学ぶべき内容と身につけるべき能力についての助言を受けた上で授業内容の構成に反映している。

「地域社会体験 B」では、公益財団法人とっとりコンベンションビューロー理事長がスタディツアーのガイドを担当。「地域交流」では、特別講師として鳥取県庁職員が講義を担当するほか、観光資源をPRするためのPBLを展開しコンソーシアム会議のメンバーとの中間意見出し、意見交換会(「とりたん生と語る会」)を開催。「地域と観光 I」では、授業にかかわるスタディツアーとして観光地の街歩きや接客研修などを予定。

「地域と観光 II」では、鳥取県西部を中心とした視察合宿を実施。

講義科目名称： 地域社会体験 B

ナンバリング： 1-1-2-07

英文科目名称： Local Community Activities B

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通 年 (集中)	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
渡邊 太			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	30 時間	地域コミュニケーション学科	専門科目
添付ファイル			

授業概要	地域社会における観光の現状と課題について、観光学の理論とスタディツアーを通じて学ぶ。観光現場を訪問し地域の魅力を再発見するとともに、地域社会における観光の意義を考察し、観光を通じた地域活性化の考え方を学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域観光の現状を理解する。(①) ・ 観光リテラシーの基礎を身につける。(②) ・ 観光を通じて地域社会に貢献する意欲を持つ。(③) 				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	観光の歴史と現在	渡邊	【事前】 シラバスを読む。 【事後】 地域観光について情報収集する。	2
	2	観光リテラシーとは	渡邊	【事前】 「観光リテラシー」の概念について調べる。 【事後】 授業内容を復習する。	4
	3	観光リテラシーを高めるには	渡邊	【事前】 観光の視点から自身の生活範囲を眺めてみる。 【事後】 授業内容を復習する。	4
	4	観光資源としての民藝	渡邊	【事前】 「民藝」の概念について調べる。 【事後】 授業内容を復習する。	4
	5	地域観光スタディツアー①	渡邊	【事前】 訪問先について調べる。	4
	6	地域観光スタディツアー②	渡邊	【事後】 授業内容を復習する。 【事後】 スタディツアーで学んだ内容を整理する。	4
	7	地域文化に対する観光のまなざし	渡邊	【事前】 自分の地元の歴史と文化を調べる。 【事後】 授業内容を復習する。	4
	8	観光資源と観光商品	渡邊	【事前】 観光資源と観光商品の概念について調べる。 【事後】 授業内容を復習する。	4
	9	地域観光スタディツアー③	渡邊	【事前】 訪問先について調べる。	4
	10	地域観光スタディツアー④	渡邊	【事後】 スタディツアーで学んだ内容を整理する。	4
	11	「住んでよし、訪れてよし」とは	渡邊	【事前】 「観光立国推進基本計画」について調べる。 【事後】 発表内容をふりかえる。	4
	12	地域観光の新展開	渡邊	【事前】 新しい観光のトレンドについて調べる。 【事後】 授業内容を復習する。	4
	13	地域観光スタディツアー⑤	渡邊	【事前】 訪問先について調べる。	4
	14	地域観光スタディツアー⑥	渡邊	【事後】 スタディツアーで学んだ内容を整理する。	4
	15	まとめ：地域社会と観光	渡邊	【事後】 課題に取り組む。	6
教材・テキスト (書籍名/版/著者/ 出版社)、プリン	資料を配付する。				

トなど	
参考文献など	小塩稲之・安田亘宏（2015）『基礎から学ぶ観光プランニング』（改訂新版）日本観光文化協会MMPコミュニケーション 山口誠・須永和博・鈴木涼太郎（2021）『観光のレッスン：ツーリズム・リテラシー入門』新曜社 遠藤英樹ほか編（2019）『現代観光学』新曜社
評価方法	提出物50%、レポート40%、授業態度10%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出物に対する評価を返却する。
資格選択区分	
教職科目の位置づけ	
実務経験のある教員による授業科目の配置	
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	不可
備考	

講義科目名称： 地域交流

ナンバリング： 1-2-2-08

英文科目名称： Regional Exchange

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位	必修
担当教員			
板倉 一枝・岡野 幸夫			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	15時間	地域コミュニケーション学科	専門科目
添付ファイル			

授業概要	この授業は、グループごとに地域に出かけてリサーチ活動を行います。また調べた内容をもとに地域課題について考察したことを発表し、地域住民との意見交換を行います。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 活動に関心を持ち、地域課題に対して主体的にかかわろうとしている。(①) 調べたことや地域課題についてまとめ、人前でわかりやすく発表・提言、意見交換ができる。(②③) グループ活動に積極的に参加するとともに、自分の役割を責任をもって遂行できる。(①③) 				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	ガイダンス（「地域交流」のめざすもの）	板倉・岡野	【事後】調査内容に関して情報収集を行い、地域課題を見つける。	2
	2	リサーチテーマについて考える（地域の実情を知る）	板倉・岡野（特別講師）	【事後】講義の内容に関して、さらなる情報収集を行う。	2
	3	調査計画の立案、テーマについての下調べ	板倉・岡野	【事前】調査候補について下調べを行う。グループで調査の計画を練る。	3
	4	グループ討議	板倉・岡野	【事前】調査候補についてさらに調べる。自分なりのアイデアを検討し、授業時にグループ内で紹介できるようにしておく。	4
	5	調査内容の報告とまとめ	板倉・岡野	【事前】インタビュー調査の内容をまとめる。グループでアイデアをまとめ、発表の準備を行う。	6
	6	発表の準備	板倉・岡野	【事前】グループで成果物（レジュメ、スライド等）を作成し、発表練習を行う。	7
	7	調べたことを発表・意見交換する（地域の方との意見交換会の実施）	板倉・岡野	【事前】グループで発表の練習を行う 【事後】意見交換会の内容をまとめる。	2
	8	振り返り、今後に向けて（主体的に地域と関わるには）	板倉・岡野	【事後】振り返りを行い、個人レポートを完成させる。	4
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
教材・テキスト （書籍名/版/著者/出版社）、プリントなど	テキストは使用しない。 必要に応じて資料を配付する。				
参考文献など	必要に応じて授業時に紹介する。				
評価方法	提出物50%、授業態度30%、発表20%				
課題（試験やレポート等）に対す	グループで作成するレジュメやPowerPointのスライド資料については、授業内および授業外に添削し、指導を行う。				

るフィードバックの方法	
資格選択区分	ビジネス実務士資格選択
教職科目の位置づけ	
実務経験のある教員による授業科目の配置	
科目等履修生ほか受入の可・否（受入可能人数）	不可
備考	「プレゼンソフト活用演習」も併せて受講し、プレゼン技法についても学んでください。

講義科目名称： 地域と観光 I

ナンバリング： 1-1-2-09

英文科目名称： Local Community and Tourism I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期(集中)	1年次	1単位	選択
担当教員			
岩崎 比奈子			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	15時間	地域コミュニケーション学科	特別科目
添付ファイル			

授業概要	観光に関する基礎的知識を体系的に習得するとともに、観光地の具体的な事例についてグループワークを行うことで、観光による地域振興について学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観光学の基礎を学び、観光による地域振興の効果や手法について理解している。(①) ・観光に関する情報を収集し、効果的に活用できる。(②) ・社会的な課題の解決に向けて、観光の観点から検討できる。(③) 				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	0. オリエンテーション 1. 観光がもたらす効果・影響	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	1.5
	2	2. 観光資源 3. 最近の旅行動向	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	1.5
	3	4. 訪日外国人(インバウンド)の旅行動向と受け入れ環境整備	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	1.5
	4	5. 観光産業と商品・サービス	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	1.5
	5	6. 観光政策の概要と観光推進組織	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	1.5
	6	7. 観光による地域振興① <ケーススタディ：議論>	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、授業で取り組んだグループワークを完成させる。	3.5
	7	7. 観光による地域振興② <ケーススタディ：発表>	岩崎	【事前】 発表の準備を行う。	1.5
	8	8. 観光人材 9. 総括	岩崎	【事後】 授業で得た知識や議論内容を振り返り、事後課題に取り組む。	2.5
教材・テキスト (書籍名/版/著者/出版社)、プリントなど	JTB総合研究所『観光学基礎』				
参考文献など	資料は適宜、配付する。				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の提出状況・理解度 50% ・グループワーク(議論・発表)への参加状況 50% 				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	履修者から提出された課題の回答状況や質問に応じて、授業の中で追加の解説を行う。				
資格選択区分					
教職科目の位置づけ					
実務経験のある教員による授業科目の配置					
科目等履修生ほか受入の可・否(受入可能人数)	受講可(5~10名)				
備考					

講義科目名称： 地域と観光Ⅱ

ナンバリング： 1-2-9-02

英文科目名称： Local Community and Tourism II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(集中)	2年次	1単位	選択
担当教員			
渡邊 太			
授業形態	時間数	開講学科等	科目区分
演習	15時間	地域コミュニケーション学科	特別科目
添付ファイル			

授業概要	この授業では、観光現場でのフィールドワークを通じて地域観光の魅力と課題を学び、グループワークを通じて地域観光の課題解決に取り組む。地域の観光資源について体験的に学ぶとともに、地域の魅力を観光資源として開発する上で必要な知識・スキルを身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域観光の魅力と課題を把握する。(①) ・グループで協力し、アイデアをまとめることができる。(②) ・観光を通じて積極的に地域課題に取り組める(③) 				
授業計画	回数	授業内容	担当者	事前事後学修	取組時間
	1	地域観光フィールドワーク① 地域の現状	渡邊	【事前】訪問先の情報を収集する。 【事後】フィールドワークで学んだ内容を整理する。	3
	2	地域観光フィールドワーク② 地域の課題	渡邊	【事後】フィールドワークで学んだ内容を整理する。	3
	3	地域観光フィールドワーク③ 地域の資源	渡邊	【事後】フィールドワークで学んだ内容を整理する。	4
	4	地域観光フィールドワーク④ 地域の連携	渡邊	【事後】フィールドワークで学んだ内容を整理する。	4
	5	地域観光フィールドワーク⑤ 新しい動向	渡邊	【事後】フィールドワークで学んだ内容を整理する。	4
	6	地域観光グループワーク① 課題解決をめぐる議論	渡邊	【事後】課題解決のための考えをまとめる。	4
	7	地域観光グループワーク② 課題解決のための意見交換	渡邊	【事後】意見交換した内容をふりかえる。	4
	8	まとめ 地域観光の可能性	渡邊	【事後】課題に取り組む。	4
教材・テキスト (書籍名/版/著者/ 出版社)、プリントなど	資料を配付する。				
参考文献など	適宜、指示する。				
評価方法	提出物30%、レポート40%、授業態度30%				
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法	提出物に対する評価基準を示す。 不可となった受講生には個別に説明する。				
資格選択区分					
教職科目の位置づけ					
実務経験のある教員による授業科目の配置					
科目等履修生ほか受入の可・否(受入可能人数)	可(若干名)				
備考					